

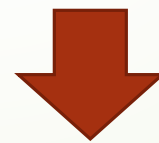
龍野東中学校の取り組み

龍野東中学校長 日下博文

学校運営（経営）で大切にしてもらっていること

➡ 【自校の弱みと向き合う】 こと

- ・ 龍野東中は、すべてにおいて活力があります。
しかし、問題行動が多く、不登校の数も多いことが
継続した弱みです。

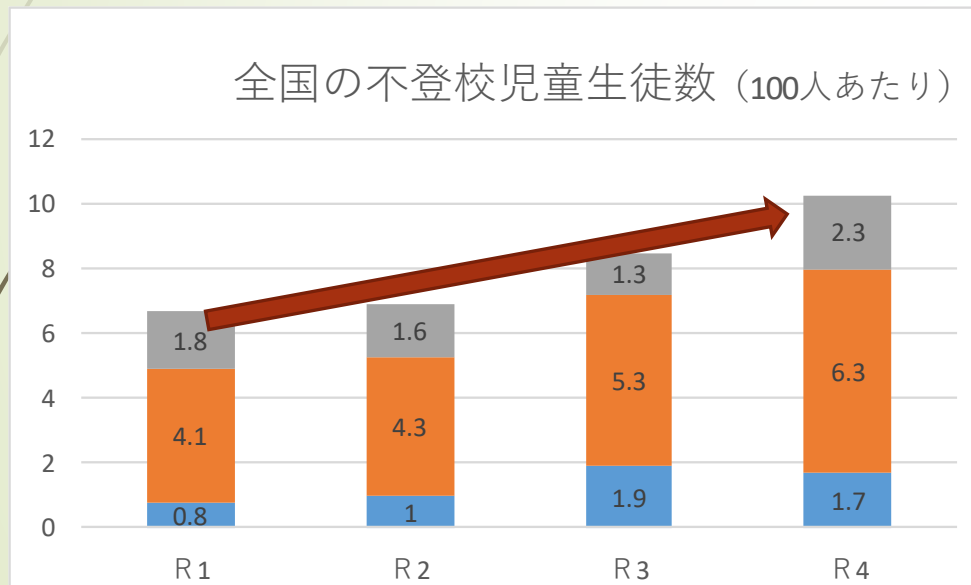


- ・ この課題に、リーダーを中心に、全職員で一丸と
なって取り組んでいます。

不登校は、今後10年以上続く難題、同時に問題行動（非行）も増え続けると考えています。

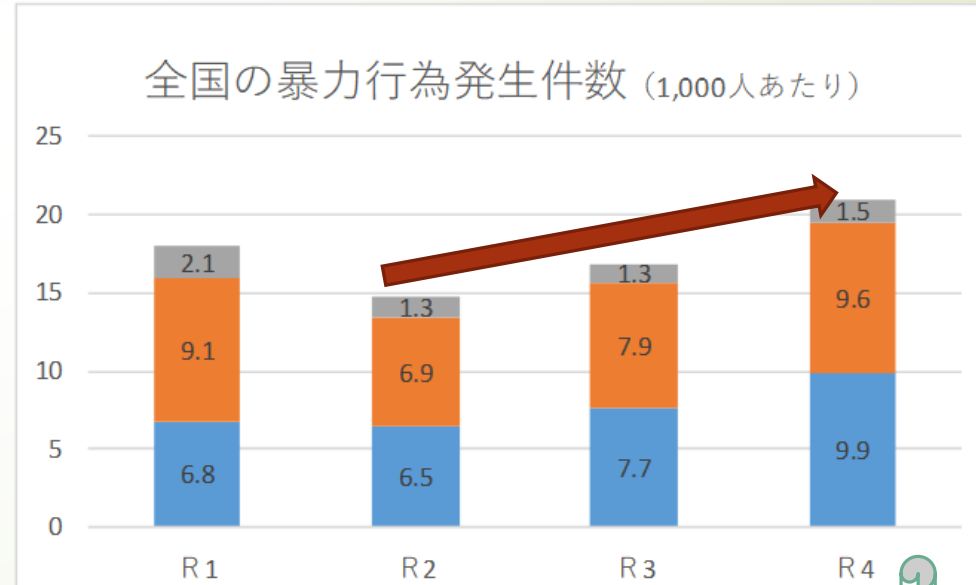
➡ 不登校児童生徒数

(100人あたり) 「指導の重点」より



➡ 暴力行為の発生件数

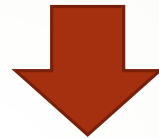
(1000人あたり) 「指導の重点」より



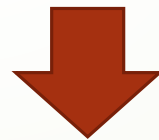
不登校を後追いして、問題行動（非行）が増加する。
理由は「根っこが同じ問題」だから

「根っこが同じ」とは！

- ▶ 両者とも「今（既存）の学校に適応できにくい子」「**適応できない子**」という点が共通。



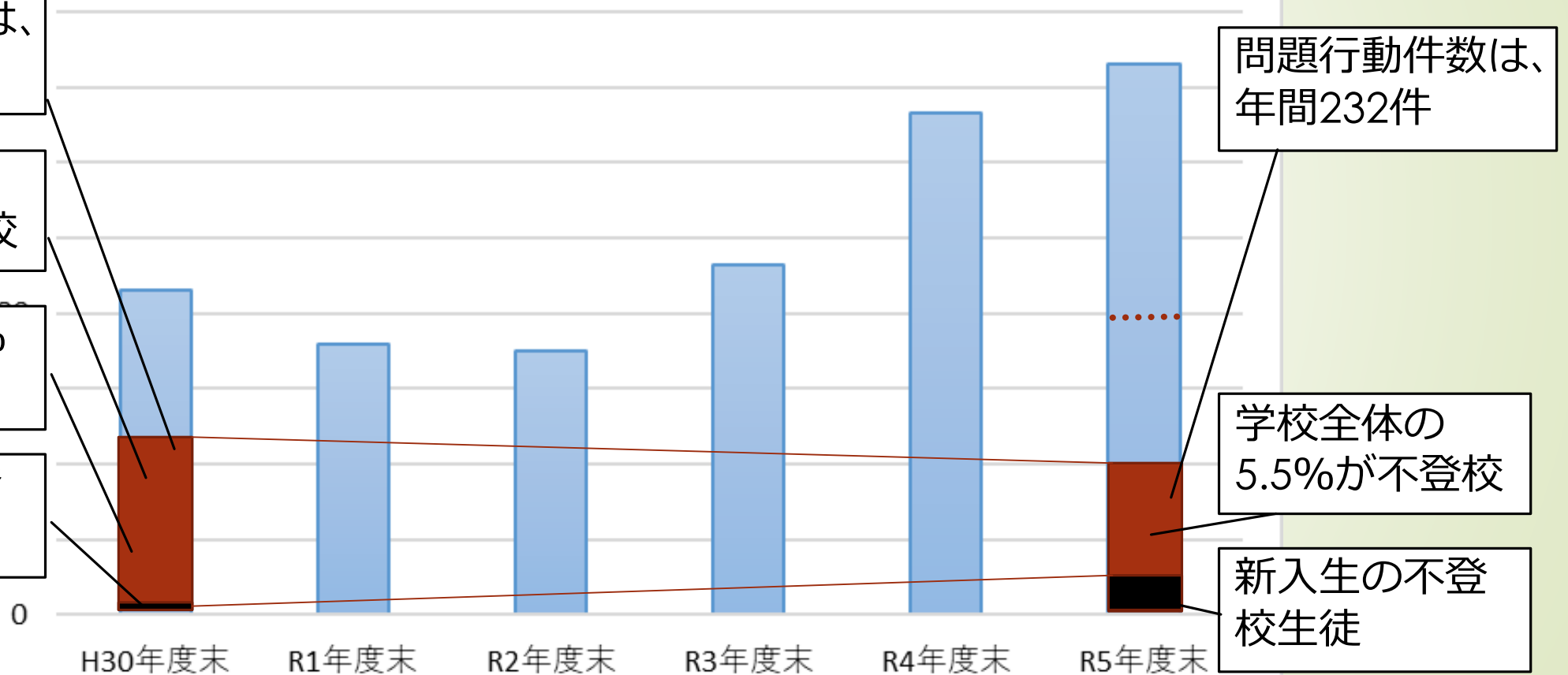
- ▶ 不登校傾向のある生徒であっても登校できる学校にすれば、非行に走る生徒も少なくできるはず。



- ▶ 学校の荒れを防ぎ、生徒が安心して学べる環境を構築するには「不登校対策を学校経営の柱」すればよい。

龍野東中の不登校・問題行動の数

たつの市内中学校の不登校生徒数推移（人）



問題行動件数は、
年間553件

学校全体の
7.1%が不登校

市全体の52%
が東中生徒

新入生の不登
校生徒

問題行動件数は、
年間232件

学校全体の
5.5%が不登校

新入生の不登
校生徒

既存をScrapし、新たにBuildしたこと

- 1. 校則⇒生徒手帳64ページ分の規則をA4の1枚に
- 2. 学生服⇒詰め襟、セーラー服をブレザーに
- 3. 指導のあり方⇒ヒエラルキーの排除へ
- 4. 宿題⇒数の削減と、紙媒体からAIドリルに
- 5. チョークとノート⇒ICTを活用した授業に
- 6. 定期考査⇒約2週間ごとの小単元テストに
- 7. 実力テストの時期・回数⇒無意味な時期にしない
- 8. 部活動の終了時間⇒時程を見直し通年で17時に
- 9. 2学期の1・2年生の過密な行事⇒1学期へ
- 10. 進路指導のあり方⇒成績による輪切りをしない

既存を見直し、不登校を減らす方法は、もっとたくさんあるはず

今年度から、新たにチャレンジしてもらっていること

- ➡ 10. **複数担任制**⇒ 一人の生徒を複数の大人で支え育む
- ➡ 11. **この先不登校や非行に走る生徒のスクリーニング抽出**⇒ 不登校や非行に走る生徒がわかれば、より絞り込んで対応できる
- ➡ 12. **停滞期（完全不登校）に入った生徒に対して、日中の家庭訪問によるA Iドリル学習**⇒複数の要因を抱えていても、復学は、本人の学びに向かう気持ちが最も大きい ⇒**出席扱いしている**

➡ 13. **兵庫県指定【教育データ活用研究事業】** ⇒

本校の不登校・非行防止対策・対応を県のスタンダードに

➡ 14. **文部科学省指定【リーディングDX事業】** ⇒

国の指導を仰ぎながら、国内でも最も進んだ教育の提供

本校や校区を、国や県が注目してくれています。